

会 議 録

会議テーマ	令和８年度 第１回阿南市総合教育会議		
開催年月日	令和８年７月24日(金)	資料の有無	有
会 場	阿南市役所 6 階 603・604会議室		
出席者	【構成員】		
	岩佐市長、坂本教育長、山田教育長職務代理者、里美教育委員、新居教育委員、岡本教育委員		
	【事務局】		
	幸泉企画部長、天羽企画政策課長（司会）、北岡企画政策課主査、西野事務主任		
出席者	【関係課】		
	安富教育部長、中田教育総務課長、西崎教育総務課課長補佐、芝山教育総務課課長補佐、西谷教育総務課係長、大西学校教育課長、岩佐生涯学習課長、清原人権教育課長、篠原スポーツ振興課長、吉村学校給食課長、岡部青少年健全育成センター副所長、松本那賀川図書館長、堀科学センター館長、市瀬教育研究所副所長		
傍聴者	5 人		
内 容			
13：15 開会			
【天羽企画政策課長】			
定刻になりましたので、ただいまから令和８年度第１回阿南市総合教育会議を始めさせていただきます。本日はお忙しいところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本会議の事務局を担当しております企画政策課の天羽でございます。協議に入りますまでは、私が進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。なお、今回は阿南市総合教育会議設置要綱第６条の規定により公開することとしており、また同要綱第７条の規定による会議録を作成するため、会議の発言内容を録音させていただきますので、あらかじめご承知おきください。また後日、会議録を市ホームページに掲載させていただきますので、こちらもご承知おきください。はじめに、岩佐市長からご挨拶を申し上げます。			
【岩佐市長】			

皆さんこんにちは。本日、ご多忙の中、令和8年度第1回阿南市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様方におかれましては、日頃より阿南の未来を担う子供たちの教育の充実、また発展ということで、大変なご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げたいと存じます。さて、この総合教育会議は、教育委員の皆様方と教育現場での課題や子供たちを取り巻く現状などを共有をさせていただきまして、それぞれの役割について忌憚のない議論を交わすことによりまして、意思の疎通を図り、今後の教育行政にしっかりと生かしていく重要な場であると考えているところでございます。今回は「小・中学校再編統合の成果と課題、閉校施設の今後のあり方」を協議事項とさせていただいております。また報告事項といたしまして、「徳島県公立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の実施について」と「図書館のまち阿南構想における進捗」でございます。皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。今後におきましても、総合教育会議を通じまして、より一層教育委員の皆様方との連携を深め、主役は子供たちであるということを常に念頭に置きながら、教育の向上に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

【天羽企画政策課長】

続きまして、第3の協議に移らせていただきます。阿南市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、岩佐市長に議長をお願いいたします。

【岩佐市長】

それでは、議題の1番目ではありますが、「小・中学校再編統合の成果と課題、閉校施設の今後のあり方」についてですが、まずは教育総務課から説明をお願いいたします。

【中田教育総務課長】

教育総務課の中田です。よろしくお願いいたします。小・中学校再編の成果と課題、閉校施設の今後のあり方につきまして、ご説明させていただきます。恐れ入りますが、着座で説明させていただきます。

小・中学校の再編に関連しました内容につきましては、令和6年8月に開催されました本総合教育会議におきまして、「小・中学校再編に係る市長部局と教育委員会との連携」としたタイトルでご説明をさせていただいたところでございます。本日、資料の方を用意させていただいておりまして、表紙の次にあります、右上に1とした資料をご覧ください。この会議の翌月、令和6年9月に「阿南市立小・中学校再編実施計画」を策定し、学校再編の事業が本格的にスタートしております。実施計画は10年ごと3期からなるスケジュールで、現在は令和6年度から15年度を実施期間とする第1期計画を推進中でございます。第1期では中学校9校を5校に、小学校21校を15校に再編する内容で進めております。

2 ページをお願いいたします。これまでの進捗といたしまして、令和6年度末に椿町中学校を閉校し阿南第二中学校へ再編、令和7年度末に椿泊小学校を閉校し、計画上の再編先は橘小学校でございますが、経過措置として椿小学校を含んだ再編で実施しております。今年度、令和8年度末には加茂谷中学校と新野東小学校が閉校し、それぞれ阿南第一中学校、新野小学校へと再編をいたします。今月3日の徳島新聞に「来春統合に向けパラスポーツで交流」とする記事で、新野東小学校と新野小学校の学校間交流が紹介されるなど、円滑な学校再編に向けまして各学校において取り組んでいただいているところでございます。また、新野中学校、福井中学校、福井小学校では学校再編検討会を設置し、再編の時期などの内容につきまして、保護者、学校、学校運営協議会の方、また地域の住民などからなる検討会のメンバーで協議を進めております。その他、津乃峰小学校、山口小学校、椿小学校の第1期対象校につきましても、保護者説明会など適宜進めてまいりたいと考えております。再編された学校への通学手段の確保の状況でございますが、旧椿町中学校、旧椿泊小学校区の児童生徒を送迎するスクールバスを運行しております。この運行においては、運行事業者と学校関係者で密に連携を図るとともに、今年度も昨年度に引き続き、運行中に地震発生を想定した避難訓練を実施するなど、児童生徒の安全確保に努めているところでございます。また、現在のスクールバス運行は、車両を市が購入して保有し、運行を事業者に業務委託しておりますが、今後、再編が進む中、対象となる児童生徒数の増加が見込まれ、年度ごとの児童生徒数の状況や運行ルートによりまして、保有車両の過不足や、状況によっては車両が不要資産化するリスクがあるとも考えております。次に、加茂谷中学校区では通学に特化した路線バスの実証運行として、学校再編に先行して阿南第一中学校へ通学する新1年生にバス定期券購入を補助する路線バス利用の支援を行っております。これは通学手段を確保しながら、同時に既存の公共交通の利用拡大にも寄与できるモデルとして実証の取り組みを行っております。この実証につきまして、去る6月に実施した利用生徒へのアンケートでは、8割の生徒が「とても満足」「まあまあ満足」と回答いただいております。合わせて導入した交通系ＩＣカード「ＩＣＯＣＡ」については、8割の生徒が「役に立つ」「ある程度役に立つ」と回答、また今後、買い物や塾、習い事への外出など通学以外での目的で、7割の生徒が「積極的に」「機会があれば」使ってみたいと回答いただいております。通学手段の確保に合わせて路線バスの利用拡大につながれることから、市として価値のある取り組みと認識いたしております。今後、再編を経験された児童生徒さんの当時の思いや意見を伺うことも、学校再編を推進する上で重要であると考えております。

3 ページをお願いします。次に閉校施設の今後のあり方につきまして、ここまでの説明で何度となく「学校の閉校」と申してまいりましたが、学校教育法等で手続きとしてありますのは「設置」と「廃止」でございます。学校を設置して開校、廃止して廃校となります。しかしながら本市に馴染みがございますのは学校の「休校」で、この後スライドで現状をご紹介しますが、これまで児童生徒数の減少により教育委員会の判断で一時的に授業を停止する休校の措置を取り、再開する可能性を持たせつつも学校を閉めてきた経緯がございます。休校中の施設は学校としての

行政目的を保持したままでございますので、日々使用のない施設でございますけれども、利用の方法としては行政財産の目的外使用の許可を得た一時的な利用しかできません。今後、学校としての役割を終えた施設につきまして、様々な利活用を幅広く検討するためには、廃止の手続きを取り、廃校施設として一時利用ではない用途を検討できるようにすることが肝要であると考えております。

4 ページをお願いいたします。こちらが本市の休校施設の状況です。これらの施設の利用状況は、避難所、投票所のほかは行政財産の申請による一時的な利用に留まります。管理につきましては、直近の3月に閉校しました椿泊小学校を除いては、地元での管理を委託契約によりお願いしております。水道、電気、火災保険などの契約は維持しておりますが、築年数が経過することにより施設の老朽化は進みます。運営中の施設は一定の費用を投じながら施設の改修や修繕、また設備の更新を行ってまいりますが、休校施設はその時点からそうしたメンテナンスを行わないことから、休校の期間が長い施設ほど劣化が進んでいると考えております。なお、今年度末には再編により閉校が決まっております、加茂谷中学校と新野東小学校がこのリストに加わってくる事となります。

5 ページをお願いします。ただ、こうした閉校施設は市の公共施設であるため、利活用にあたりましては本市の「阿南市公共施設等総合管理計画」に沿った方針を取る必要がございます。本計画は、人口減少や少子高齢化などの社会情勢の変化に対応し、持続可能な行政経営を実現するため、公共施設全体の現状を正確に把握し、長期的な視点に立ったあるべき姿を検討する必要があります。そのために、総合的かつ計画的な管理を推進することを目的とした計画となります。学校施設につきましても、この計画に基づき、次の用途変更の検討、民間団体への売却移譲の検討、廃止の検討、といった視点を持った検討が必要となってまいります。

6 ページをお願いします。また、学校を新たな用途として整備するには、学校施設ならではの次のような注意確認事項がございます。建物にはそれぞれ適用される法律があるため、都市計画法など法律への適合が必要となります。また、本市の学校施設は、最も新しい施設でも築30年を超えており、多くは50年を超える施設となっております。施設及び設備において改修等が必要となります。また、学校施設は他の公共施設と比較してもかなり大きい施設となります。何らかの利用で施設の一部しか使用しない目的を持ちますと、設備面や施設の維持の費用が利用の内容に見合うかどうか確認する必要があります。例えば、学校施設は100人槽級の浄化槽を設置している場合もあり、保守や清掃料金もその人槽に見合った費用が必要となります。また、使用電力の容量から、休校になった後はそれほどの電力を必要とせずとも自家用電気工作物が設置されている場合がございます。その保守点検料も必要となってまいります。そして、全ての学校施設は避難所の指定を受けており、多様な利活用を図る場合には事前の調整がこれまた必要となります。利活用するにあたっては、公立学校以外の用途となるため、教育委員会教育総務課以外の関係課が今後所管や窓口となる可能性もあります。そして、学校に使用することを条件として賃借

しているケースもございますので、そういった面も事前に確認することが必要となります。

7 ページをご覧ください。こうした事前の要検討事項を踏まえまして、施設所管課として利活用の方向性を決定するまでの手順を具体的にいたしますと、まず最初に、地域の方に施設の利活用について、諸条件や取り組みの方向性について合意形成を図る必要があると考えております。学校施設は長年にわたり地域の主要な公共施設であったため、地域の方の思いや考えをお伺いする必要があり、そして同時に、当該施設の老朽化を含めた状態、また用途による改修や管理コストなど、利活用にあたっての制約など条件面を共有することも必要となります。加えて、公共施設は市の、また市民の財産であり、当該施設の可能性を探るため、地元住民の思いや考えを踏まえた利活用のサウンディング型市場調査を行うべきとも考えております。ここまでの1の段階を担当課、教育総務課の方で十分整理を行い、次の段階では関係課の協力を得ながら、市全体または地域ごとの公共施設の充足状況の確認や、民間提案制度による民間活力のニーズを確認する必要があると考えております。この①、②の経過を踏まえまして、当該施設の最適な利活用について、市としての判断がされるべきと考えております。その判断には、施設の老朽具合や地域における公共施設の充足具合から、用途変更のための改修を行い、改修手続きを行って、学校ではない行政施設として活用するケースや、やむなく総合的な判断として廃止による施設の除却、用地の売却のケース、また民間事業者に委ねるケースなど様々考えられますが、いずれにいたしましても市長部局と連携して、最適な利活用として判断する必要があると考えております。

最後、8 ページとなりますが、冒頭ご紹介させていただきました学校再編実施計画の抜粋となりますが、第3章4「市長部局との連携」に記載をさせていただいておりますが、適切な検討手順の確立と行政部門を横断した取り組みにより、市として当該施設の最適な利活用につきまして判断決定をきちんとすることが、閉校した学校施設の利活用の推進につながると考えております。説明は以上でございます。

【岩佐市長】

ただいま教育総務課から説明がありましたが、これらを踏まえた上で、皆様のご意見なり、またご提言、途中でご質問があれば言っていただけたらと思いますので、皆様のご意見、ご提言をお願いしたいと思います。山田委員さんから順に発言をお願いしたいと思います。

【山田委員】

失礼いたします。山田です。まず、早い段階での資料の提供、本当にありがとうございました。おかげさまで、検討する時間があったので心に余裕ができました。再編についてですが、私は椿町出身で、椿泊の友達に「学校が休校になって街の動きはどうですか」と聞いたところ、「今

のところそんなには変わりありませんよ。ただ、みんなバラバラになって出発してしまった」という言葉が返ってきました。「ただ、あの時の判断は子どもたちにとって本当に最適な判断だったと思っています」と。けれど、再編された先に適正規模があるかということはやはり重要で、再編は親御さんたちにとっても大きな問題ですし、ましてや子どもたちにとっては人生を左右する大きなことですので、やはりいろんな検討会の様子も聞かせていただきましたが、強い意見に流されずに、子どもを真ん中に置いて、論じるということは絶対外してはならないなと思います。私は「陸の孤島」と呼ばれた時代に椿で子ども時代を過ごしましたので、「教育の機会均等」ということを、だいぶ大きくなってから感じるようになりました。椿町が悪いというのではなくて、トンネルができた時が小学校の6年生でしたので、それまでは全く遮断されたところに学校があったわけです。先生たちも非常に努力はしてくれましたが、適正な規模がないということは、中学校であれば教科担任の先生がいないから、教科の専門ではない先生に教えていただきましたが、高校生になって、自分が受けた教育を「あれ、なんか違うな」と思いはじめたわけなんですよ。だから今の子どもたちにとってこの再編が、ぜひぜひ子どもたちのためになるものと信じて、進めていただきたいというのが私の感想です。

あと、閉校施設なんですけど、管理委託を受けている方は、「とにかく朽ちていく学校を見ているのはもう忍びない」と。「年数回の利用のために草刈りしたり、いろいろお世話をしてるんだけどね」というような言葉も聞いたりします。私は6月25日に教育委員を拝命してから、この総合教育会議が全く初めてなので、過去の資料を見るしか様子を掴めなかったんです。その中で感じたのが、令和4年の阿南市の6月議会、それからその年の総合教育会議で、この教育関係の施設の利活用についての協議をされているんです。その中で心に残ったのが、文科省が「廃校プロジェクト」の活用事例集というのを4年前に発行してまして、そこで室戸の廃校水族館、それから三好市の出合小学校の跡のホステルの利用について発言があったんです。ということは、その辺りからすでに市ではいろんな情報を得て進められていたにしては、それから4年経っているんですよ。なんでこんなに時間がかかるのかなと思いましたが、今日いただいたこの公共施設等総合管理計画、これが10年間を経てその施設を計画するという節目になっていることを知りました。その最終年度が今年なんですよ。ですから、やっと動き出したなど、施設を見守っている地域の方にとっていい方向で合意形成を結びながら、今日ご説明いただいた手順を中心に進めていただきたいなと思います。誤解のないように言いますと、私は「廃校ありき」ではなくて、スライドの中で示していただいた3つの方向性が出てきたと思うんです。用途変更の検討、これはかなりハードルが高いということが説明の中で分かりました。そして、2つ目が民間団体への売却ですね。3つ目が、廃止の検討。どれになっても地域住民の方のこの意見というものをしっかりと聞いて、状況をお伝えしながら気持ちよくその方向に進めばと思ったのが私の感想です。感想で申し訳ないのですが、再編については、この間海部小学校と穴喰小学校における再編の住民の説明会があったのですが、新聞を見たら「説明会の後、検討委員会を立ち上げる」という一言があったんです。ですから、再編と同時にその施設をどうするかという検討の委員会が開かれたのかなと思い、参加した方に聞い

たら、「とてもそこまではいきませんでした。再編の話だけで噴出してしまって、きっとこれはこの後からのことになる」ということでしたので、再編と施設の利活用っていうのは、タイミングがあると思うのですが、やはり同時に考えていかないと、これだけ再編が進んできたら、もう後手に回ってしまうなということを感じました。長々喋りましたが以上です。

【岩佐市長】

はい、ありがとうございます。次新居委員さんお願いいたします。

【新居委員】

失礼いたします。今、山田委員がおっしゃられた中で、同じ意見がたくさんありましたが、再編統合につきましては、検討に検討を重ね地域の方々に説明をされておりましたので、私の中ではスムーズに、大きな問題もなく進んでいったのではないかと考えております。もちろん、いろんな意見がございますので、全ての意見を聞くことはできませんが、地域の方たちの想い、そして子どもたちの将来を1番に考えて、ベストな方向で進んでいるのではないかと、そういう感想を持っております。そして、その後の利活用ですが先ほどのスライド案にありました民間団体への売却等ございますが、やはり学校が地域からなくなるということが、その地域にとっての痛みであり、また防災施設の拠点であり人が集まれる場所でもあるわけですから、民間の団体がどのようにしてその場所を生かしてくれるのかということも大事なのですが、防災の分野でも利用できたり、地域の人たちも利用できるような場所であってほしいと思います。そしてどんな形でプレゼンをしてもらうのか、またどのように皆様に周知して手を挙げていただくのかということも、あわせて考えていただけたらと思います。あとは、その都度また皆様で、いろんな意見を出し合いながら進めていけたらと考えております。以上です。

【岩佐市長】

はい、ありがとうございます。次、岡本委員さんお願いいたします。

【岡本委員】

私も先ほど内容を伺って、すぐ何かをどうするかというのは、一番難しいことだと感じています。「市民の財産」という言葉がありましたけれども、やはり、たくさんの意見を全て集約するのは難しいところではあるんですけど、市として、行政と企業が連携して、いろんな取り組みをしていこうということもあります。ここにも書いてありました、民間団体への売却等の検討というのも、そういった民間企業さんの意見、例えば研究施設であったり、あと観光施設であったりとか、そういった企業さんの意見っていうのも、先ほど新居委員さんがおっしゃったプレゼンなり、そういう情報をもっと大きく、視野広く取っていくというのも一つの手かなと思いました。以上です。

【岩佐市長】

里美委員もお願いします。

【里美委員】

はい。私も椿町中学校、椿泊小学校の閉校式に参加させていただきまして、実は私の母も椿出身なんですけれども、それぞれの学校に長い歴史がありまして、その地域の方々が本当に学校を大切にされてきたんだなというのを強く感じました。ただ、教育という観点から見ますと、やはり適正な規模があるというのは重要で、特に中学生にとっては部活動はとても大切ですので、今回着々と進められている、教育の適正規模に見合った人数に整えていくという作業は、結果としていいのではないかなと思います。そこで一つ、最近気になりますのは、学校訪問に伺いますと、どの学校でもいろんな補修の要望があります。平均 50 年ぐらいの古い施設を小出しに補修の費用をかけていくと、結果として、あまりコストパフォーマンスが良くないというか、補修しておきながら違う学校に統合していくというのを、後追いのような形で次々繰り返していくのは、再編した結果が子どもたちの教育にとっていいのであれば、ここは先ほど山田委員さんもおっしゃったように、教育面でも費用面でも思い切った措置が必要な時期が来ているのではないかなと思います。

それと、利活用の問題ですが、まず新居委員さんがおっしゃられた「防災」っていうのが気になりますよね。学校施設がなくなって何かあった時に、地域の人はどこに集まるんだろうというのが一つ気になります。避難所との関係もあると思いますが、その辺りはもう一度確認しておくべきではないかなと思います。それと、活用の仕方ですが、先ほど室戸の廃校水族館のことを例に挙げていただきましたけれども、地元の人間が気づかない、全く新しい魅力的な活用法もあるのではないかなと思います。といいますのも、先日、地域おこしで加茂谷に来てくださった若い方々の、不動産関連の会社の方から、「使われなくなった施設が阿南の中にたくさんありますが、それらの中で大変魅力的なものもある」というお話を伺いました。すみません、ちょっと長くなって申し訳ないんですが、北海道から友達が来まして、それで国際交流協会の野村先生から「ちょうど伊島でササユリ祭りがあるから行ってみたら」と言われまして出かけてみました。伊島に過去 3 回行ったことがあるんですけども、結果から言うと非常に素晴らしい体験でした。一つには、私は知らなかったのですけれども、伊島というのは、阿南から見ると離島の僻地のような感じですが、歴史的に見ると、平安時代中期の空也という僧が仏教を広めるために上陸した浜というのもあるそうですね。それから、北海道の友達が感心してたのは、地域の高校生がササユリの保全活動の担い手になっているということです。岡本委員さんも言うていただきましたが、観光資源として最近では、観光という概念が従来とは異なる形で、いわゆる温泉とかそういう消費型とはまた別の「ツーリズム」というのが発展してきて、大学でも観光学科というのが新たに設置されてますし、例えばトレイル、森林とか山を歩くという、それが環境保全に貢献することにもなる、そういう形の観光が注目されてきているということです。ですので、伊島の小学校を、非常に魅力的な観光施設として蘇らせるこ

と、再利用することができるんじゃないかと思いますし、他にもそれぞれの地域でいろんな活用の仕方は前向きにあるんじゃないかと思います。ですので、元々ある貴重な資源として有効活用していこうという前向きな発想でやっていただけるとありがたいなと思います。すみません、長くなりましたがよろしく願いいたします。

【坂本教育長】

はい、失礼します。再編統合の成果と課題ということです。まず成果についてはですね、再編後の学校に行き、子どもたちに会ったら、「再編統合はどうだった」ということを必ず聞くようにしています。そうしますと、ほとんどが「良かった」という声を挙げてくれて、「ああ良かった、これだけでも嬉しいわ」というようなお話を必ず聞いています。中学生とか、人間関係等でいろんなこともあるようですが、卒業する時になって「あの学校は良かった」と、いろいろなこともあるんだけど楽しかったというような感想も聞かれています。もちろん山田委員さんがおっしゃった、教科の先生が揃うというようなことも非常に大事なんですが、それと同時に、授業以外のところでの人間関係をどんどん育んでいるという価値の大切さというのを感じているところがあります。今日から企画展で、市役所の2階で椿泊小学校の企画展を開催しております。ちらっと覗いてまいりましたが、椿泊小学校の懐かしい様子が紹介されております。ここで育った方が今阿南で元気に過ごしてくれておりますので、それぞれの良いところが生かされてきて、本当に一生懸命やってきた成果があったなと感じております。今年については、加茂谷中学校、そして新野東小学校が再編されていくわけですが、その中で学びが充実することを願っているところであります。

あと課題ということで、閉校施設の利活用のことなんですが、これも非常にいろんな面から考えて難しいところはあると思うんですが、まず自分としては、このスライドの中の7番から8番にかけてのところですね、方向性を決定するまでの手順、この辺りが今まで漠然としていて、はっきりしていなかったというところが、前に進みそうで進んでいかなかったところが非常に大きいんじゃないかと感じております。こういう行政的なシステムを組んで、「ここまでは教育委員会がしっかりやっていく、ここから後については、市長部局も含めて横断的に取り組んでいく」という流れがある程度出来上がってきたら、いろいろなプロセスが進んでいくんじゃないかと感じております。これからますます、休校施設が増えていきますので、これがどんどん積み重なって、各地域にとっては、もちろん大切な施設はないんですが、全体としてみた時に、本当にこれだけのものを維持し続けていくことが今後、未来永劫可能かどうかということは、しっかり考えていかなければならないと思っているところでございます。以上です。

【岩佐市長】

ありがとうございます。私が言うのもあれなのかもしれませんが、再編については、実施計画を策定していただいて、それに則って進めていただいているところなんですけど、やはりその後の

施設の利用っていうところで、先ほど教育長もおっしゃっていただいた、教育委員会の中、総務課の方でのサウンディングとか含めて話をさせていただいて、それを市長部局の方に引き継いでっていう流れもしっかり作った上で、先ほど山田委員さんのお話の中でもありましたけど、どうしてもそのタイミングというのがたぶん一つの課題なのかなと思います。私が言うのも変になってくると思うんですけど、例えば加茂谷中学校とか新野東小学校とか、現在再編に向けて動いているところにおいて、今後の跡地利用に関しての検討会の立ち上げの方針っていうのが、ある程度ありますよね。今学校に通っている子供たちの視点もあるので、「次、何にしますか」っていうのを子供たちが通っている中で、次どういうふうに使っていくかっていうのを、たぶん教育委員会の方としても、並行してっていうのはやっぱりやりにくいっていうところはあると思うんですよね。その中でやっぱりどうしてもその「タイムラグ」というか、実際休校になってから、「じゃあ実際どういう使い道があるんだろうか」ってサウンディングをしたりとかして、ある程度そういう方向性がまとまった時点で、可能性が出てきた時点で、また一步っていうことになる、どうしてもたぶん何年か間が経ってしまうっていうのも一つ、課題ではあるかと思います。また委員さんも皆様おっしゃっていただいて、この子供を中心に考えた時には、私もそのタイムラグっていうのが発生してしまうのかなと。ただその中で、今の旧椿泊小学校、旧椿町中学校とかにおいても、跡利用を考えつつ、防災の面もね、やはり両面を生かしながら、ただやはりその施設の維持管理とかいうところも出てくる、その辺の難しさはたぶん今日意見が出たかと思いますけれど。今後の方向性というか、どういうものが利用ができるかっていう中で、また決まってきた時に、先ほど最初の方に課題として出てますけど、いろんな法律関係、消防法とかのお金もありますので、改修って言うんですかね、やる時にも、当然改修費用等もかかってきます。ただやはり、地域の方としたらそこで、なんとかやっぱり、学校ということがなくなると寂しいっていうところもあります。休校となっても、その地域にあった建物っていうのをどう使っていくかっていうのは、地元の方々にとってはやはりいろんな思いもあるし、当然、時間が経てば経つほど様々な思いも出てくるかと思いますので、そこはまた教育委員会としっかり連携をしながら、そうした活用の筋道っていうものを、作るべきかなというふうに思っております。今、一通りの意見が出た中で何か、委員の皆さんから発言とかご意見ございますでしょうか。

【山田委員】

すみません。細かい質問なんですけど、スクールバスを運行されていますが、業者さんは毎年変わるのでしょうか。

【中田教育総務課長】

失礼します、教育総務課の中田です。毎年度、入札を行っておりますので、可能性としてはございます。

【山田委員】

ありがとうございます。と申しますのが、私、現役時代に、タクシーのドライバーさんが、子どもを送迎してくれてたんですが、「先生、子どもが喧嘩してましてね、仲裁にきてほしい」と。学校での人間関係とか揉め事が、そのまま帰りの車の中に持ち込まれてしまったみたいで、先生もいないし、どうしていいかドライバーさんが分からなかった。きっとドライバーさんだけだと思うんですね、スクールバスの中は。だから子どもたちの様子って、よく状況を見られると思うので、もし何かあったら、必ず先生たちにご連絡していただくとか、ちょっとした変化をね、教えていただけたらありがたいかなと思います。

【岩佐市長】

はい、ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。里美さんお願いします。

【里美委員】

すみません。本題とは直接関係ないかもしれないんですが、再編の話が出ました時に、いわゆるネーミングの問題ですね。できるだけ委員の中で、「廃校っていう言葉は使わないようにしよう、暗いものになるし、ちょっと寂しいイメージがあって、地域そのものが失速していくようなそういうイメージがある」ので、それで「再編統合」という言葉にしようというお話が出たことを記憶してます。今説明していただいて、法律上「廃校」という言葉を使わなければならないことがいろいろあるということで、それはそれで仕方がないかなと思います。ただ、先ほども申し上げましたように、子どもたちがだんだん少なくなって、学校を閉じなければいけないというのは仕方ないことだと思うんですが、また全然違う視点から見れば、その施設、学校というのは大変いい位置にあります。南の方は本当に自然環境に恵まれてますので、視点を変えれば非常に魅力的な財産であると思うんです。ですので、「人が少なくなって寂れていく」という心持ちでこの問題に取り組まず、前向きに、開いた形で取り組んでいただけると、また結果が違ってくるんじゃないかなと思います。よろしくお願いいたします。

【岩佐市長】

はい。当然、おっしゃっていただいたように、市長部局としての公共利活用っていう段階ではその「廃止」という手続きを踏まなければいけないんですけども、そこに至るまでの、いわゆるサウディングとか含めて、よりいいものに活用できるというような協議を重ねた上でのことにはなるかと思います。今の休校がもう長く続いている施設もたくさんありますので。そこを利活用してもかなり、高いハードルがあったりするところはあるかと思いますが、おっしゃるように「廃校」というのはもう最後の最後なので、まずは、休校っていう形で再開の可能性も含めてやってますので、ただやはり、次のステップとしてはやはり「廃止」の手続きが必要となりますので、それまでの合意形成というところが重要になろうかと思います。他、よろしいですか。

【岩佐市長】

はい、それでは、いろいろいただきましたけれども、まずはやはり、再編におきましては子供、そこで学んでいる子供たち中心に、適正規模ということで、教育委員会の方でも実施計画に則って推進していきたいと思ひますし、またその施設利用というところでは、段階を経ていただきながら、市長としても、その後の活用についてしっかりと進めていきたいというふうに思ひておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは、議題1につきましてはこの辺で閉じたいと思ひます。

【岩佐市長】

次に議題2「その他報告等」についてであります。まず学校教育課から「徳島県公立学校のエ育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について、報告をお願ひいたします。

【大西学校教育課長】

失礼します、学校教育課の大西です。徳島県公立学校のエ育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の実施について、ご報告いたします。着座にて説明いたします。本計画は、令和7年6月に開始されました「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法（給特法）」により策定が義務付けられ、徳島県教育委員会指導のもと、県下全市町村教育委員会が共同で策定いたしました。令和8年4月1日より実施開始しております。本計画の概要につきましては資料の裏面にございます。現在の取り組みといたしましては、まず1「教育長メッセージ」を发出いたしました。これは徳島県教育委員会教育長と阿南市教育委員会教育長連名による、保護者と地域の方々等に向けたメッセージでございまして、持続可能な教育の実現に向け、周知、ご理解、ご協力を求めるものでございます。次に「働き方改革見える化ダッシュボード」の活用についてでございます。本計画では、各市町村教育委員会、各学校において、働き方改革推進パッケージに記載の22の項目から、それぞれの実情に応じて実効性のある取り組みを選択し、重点的に取り組みを進めます。取り組みを効果的に進めるためのツールの一つとして、働き方改革見える化ダッシュボードを活用しております。このシステムは、市内小中学校全体や各学校、個人の時間外在校等時間に関するデータをグラフや表で可視化することにより、進捗状況をより捉えやすく、成果と課題をより分析、共有しやすくするものでございます。教育委員会、管理職、それ以外の教職員によって見え方が違い、それぞれの立場で働き方改革を「自分事」として推進していくことができる仕様となっております。学校教育課としましては、各校の取り組みを把握し、小・中学校長会等で推進状況や成果と課題を共有し、本計画が掲げる目標達成に向け、さらに推進してまいります。以上、ご報告となります。よろしくお願ひいたします。

【岩佐市長】

はい、ありがとうございます。ただいまご報告をいただきました内容につきまして、まずは何かご質問とかがあれば発言をお願ひします。特にご質問とかはないですか。じゃあ岡本委員さんお願ひします。

【岡本委員】

このダッシュボードはもう既に使用していて、全ての教職員さんが見える状態なんですか。

【大西学校教育課長】

はい、失礼いたします。このダッシュボード機能が、今整いつつあるという状況でございます。令和7年度のシートも各校既に入っておりますが、4・5・6月分を今、県教委の方が整え、各市町に下ろしてきている状態で、グーグルアカウントの方から、教育委員会も管理職も各教職員も、そこに入っていけば見えるという状況になっております。

【岩佐市長】

はい、よろしいですか。まずはご質問というところ、ご質問含めてですけれども、今のご説明ありました内容につきまして、ご意見とか、またご提言踏まえてご発言、これはもうご意見ある方で、お願いできたらと思いますが、次は山田委員さんお願いします。

【山田委員】

お願いします。質問ではないんですが、私、別の役も受けてまして、学校へ子どもたちの前で授業をさせていただく機会が、年間何度かあります。その時に、担任の先生と打ち合わせがいるんですよね。何時に、この日だと電話するんですが、私たちの感覚では「先生は放課後でないと時間が取れない」となれば、勤務時間を超えて、今まで電話してたんです。ところが、どこかの学校の先生が「この時間だったら終わりますので、この間の時間をお願いします」と言って、終業時間を2時間ぐらい遡ったところで指示があったんです。あれっ、と思ったことから始まり、働き方改革にたどり着きました。先生の働き方改革で私自身ができることは、そちらの団体の方でお話を皆様にして、「必ず勤務時間外には交渉の電話はしないでください。5時が勤務時間終わりではありませんよ。学校によって4時40分に終わるところもあるので、その辺り地域の学校をよく知っていただいて、必ず私たちにも協力できることはしましょう」と一市民として呼びかけさせていただきました。

【岩佐市長】

では、里美委員、お願いします。

【里美委員】

以前、この働き方改革に、教職員の方々へのアンケートで、いろんなコメントを拝見させていただいたことがあります。その中で、いくつも印象に残ったのはありますが、特に小さいお子さんがいらっしゃる女性の先生で、「いつまでも学校にいるわけにはいかない。なので仕事を持ち帰り、子育て、家事、一段落した後で、ようやく子供たちのことに向き合える」という、印象的なご意見

がございました。何時間という上限の目安は確かになりますが、教員の仕事というのは、この時間だけでは測れないものがあると思いますので、これまでの教育委員会では、その辺りご苦心が見えるということで柔軟に対応してきてくださったと思いますが、これからもできる限り、数字だけではなく、個人の人格としての先生方を見て、いろいろご配慮いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【坂本教育長】

はい、ありがとうございます。この働き方、昨今の教員不足等もございまして、教員を志望する方がどんどん減っていると。今年の採用試験も一番少ない数で、志願者がいないというような状況、それから精神疾患で休職する、退職する教員が年々増えていると、つい最近新聞等に挙げられておりました。そういう状況を払拭するためにも、先生方が働きやすい環境を作ることが、重要であると考えているところでございます。ただ、今、里美委員さんがおっしゃった、時間だけでは測れないもの、これももちろんございます。いくら、在校時間を短くしても、その中身ですね。本当の教材研究をやるとかですね、これがおろそかになってはいけませんので。仕事が減っていかなければならないのはもちろんですが、やりがいも少なくなってしまったとなったら、本当に子どものためになっている改革なのかというあたりを、常に、現場で子どもを直接相手にしている先生方が、本当に実のある働き方改革に繋がるように、指導助言というか、一緒に話し合っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【岩佐市長】

はい、ありがとうございます。他にご意見とかございませんか。それでは、報告事項でありました、この業務量管理、健康確保措置の報告については、ここまでにしたいと思います。

【岩佐市長】

次に報告といたしまして、那賀川図書館から「図書のまち阿南構想」についての、進捗の報告をお願いいたします。

【松本那賀川図書館長】

失礼いたします。図書館の松本です。よろしくお願いいたします。「図書のまち阿南構想」につきまして、報告をさせていただきます。この後は、座って報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。お手元の資料3をご覧ください。図書のまち阿南構想では、阿南中央図書館（仮称）を核として、阿南市全域において市民がいつでも誰でも気軽に集い、図書に親しみ学び合えるまちづくりを目指しておりまして、今年の3月にこの構想を公表いたしました。構想の中の、主要な部分として本日報告をさせていただきますが、この図書のまち阿南構想における阿南中央図書館（仮称）ができた際に、既存の那賀川、羽ノ浦図書館の新たなあり方についての検討

についてでございます。市民の皆様のご意見、それからご要望を可能な限り反映するとともに、本構想の推進に必要な財源の確保を並び立つものにするを基本スタンスとして検討を行ってまいりました。

①の「残す機能」。あくまでもこれは那賀川、羽ノ浦図書館の新たなあり方の検討についての視点としてでございますが、まず残す機能につきましては、意見募集として「残してほしい」という意見が多かった、蔵書の貸出機能、それから司書の配置、読み聞かせの活動等に関して、これにつきましては本来の図書館機能と言われる部分でございますが、それにつきましては可能な限りその機能を存続できるように検討をしているところでございます。②番の「見直す機能」でございますが、この見直すことにつきましては、図書館の資源であります蔵書の一部を新図書館、阿南中央図書館（仮称）に移管することで生じる書架スペースの空間を見直し、有効活用をすることで自習スペース等の利便性向上を図りたいというふうに考えております。③番「新たに導入する機能」につきましては、これも昨年来の市民の皆様からのご意見、ご要望を反映するとともに、今以上により多くの市民の皆様が図書館という施設を利用いただけるような施設にするために、読書機能等と連携できる機能の導入を検討しているところでございます。

また、この図書館の蔵書の考え方といたしましては、新図書館の蔵書を那賀川、羽ノ浦図書館において展示をして、貸出、返却等も可能といたします。これにつきましては現在のところ、新図書館から那賀川、羽ノ浦図書館に展示するのは、それぞれ 3000 冊から 5000 冊というのを想定しております。那賀川、羽ノ浦図書館が今現在所蔵している本につきましては、新図書館に移管する本と、それ以外の本に分別をして、移管対象外の本についても有効活用について検討してまいります。また運営体制につきましては、当初から司書の配置というのを想定しておりますが、全体の運営に対して市による直営になるのか、指定管理にするのか、民間委託にするのかという運営手法については、今後の検討材料ということで検討してまいりたいというふうに考えております。

裏の面をお願いいたします。裏の面には、この「図書のまち阿南構想」の柱の一つであります「読書テラス」ネットワークの構築についての報告になります。小中学校や公民館、科学センター等の多様な施設との連携を強化しつつ、公共施設の読書テラスだけではなく、市民協働の私設の読書テラスの設置についても、取り組みを目指してまいります。そのような取り組みの中で、市内全域において様々なスタイルの読書環境づくりを行ってまいりたいと考えております。令和 8 年度、今年度の実施計画といたしましては、まず「阿南市立科学センター」に読書テラスを設置いたしました。これについては先週、7 月 19 日の日曜日にオープンをしております。また、この科学センターの読書テラスオープンに合わせて、愛称募集を今しているところでございます。愛称募集につきましては 8 月末まで、科学センターと平惣の阿南センター店の中で行っております。今年度の次の計画といたしましては、この後、見能林公民館と新野公民館の中に読書テラスを設置することを現在準備しているところでございます。この読書テラスの整備にあたっては、

まずは施設利用者ニーズに合わせた資料収集を行ってまいりたいと考えております。科学センタにつきましましては、理系でありますとか小中学生が好むような本について、約 400 冊を今置いてあるんですが、そのように施設や地域に合った本や資料をまとめていきたいと考えております。また、ポップ作りやリスト作成、地元書店との連携など、利用いただけるような工夫を進めてまいります。今年度設置する読書テラスは、特にモデル施設として、運用しながら必要な改善を図りつつ、次の読書テラス整備にフィードバックしていきたいと考えております。

続きまして、阿南中央図書館（仮称）の基本設計の概要につきまして、ご報告をさせていただきます。資料 3 の 2 枚目、A 3 カラーの資料になります。この設計業務につきましては、株式会社東畑建築事務所と昨年 9 月に契約を締結し、現在も進めているところでございます。今年の 5 月に、基本設計という基本的な部分の設計が完了いたしました。それを受けて現在は実施設計、より詳細な設計の段階に入っております。資料の 1 「設計方針」から説明をさせていただきます。昨年 3 月の整備計画の趣旨を踏まえ、「みんなの居場所となり街をつなぐ図書館」として設計を行っております。「まちづくりの拠点をつくる」として阿南駅周辺まちづくりの中核、新たな賑わい創出拠点と位置づけ、広場、図書館、地域交流センターが連携した場を作ります。「多様な居場所をつくる」として、あらゆる世代が活躍できる居場所、また「まちの資産をつくる」として次世代に受け継ぐことができる、市民に永く愛される図書館を目指します。

2 「敷地概要」をご覧ください。計画場所は阿南市富岡町北通、現在閉館中ですが、市民会館を除却しまして、その跡地及びその前の駐車場に建設をするという計画でございます。

3 「建物概要」でございますが、図書館棟は鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造で、2 階建てでございます。延床面積は約 3193.86 平米、実施設計において多少上下することもございますが、現在約 3200 平米ということで事業を進めております。

4 「配置計画」でございますが、隣接するひまわり会館とつながる大きな広場を設け、街のランドマークを目指します。ひまわり会館と連携するような形で整備をしていきたいと考えております。また、南側、西側に約 70 台分の駐車場を設けて、雨に濡れずに乗り降りできる車寄せや思いやり駐車場も合わせて設けていきます。

資料の裏面、平面計画をお願いいたします。1 階につきましては、メインの出入り口が建物の南東側（図の右下）にございます。その角にはカフェコーナーがあり、入るとエントランスホール、ロビー、研修室 1、キッズルームといった地域交流センターのエリアとなります。研修室 1 は平時は自習室として、イベント時には読書活動や文化活動のスペースとして活用します。床面が薄い黄色のところは中央図書館で、1 階は児童開架室となります。事務所の奥には、対面朗読室やお話しコーナーを設置する予定です。また、移動図書館車の車庫もここに設けるように設計しております。2 階につきましては、一般開架室となり、個人席のある学習室やグループ室を備えます。床面が濃い紫色の部分は閉架書庫でございます。

最後、6の「環境配慮計画」ですが、一つの課題として雨水の浸水対策を掲げております。周辺で浸水被害が多く発生すると言われていたところであり、床の嵩上げや、1階外壁のRC造化、そして雨水の流出抑制対策を行います。広場の透水性舗装のほか、市民会館の地下躯体を再利用した「雨水抑制槽」を整備します。大雨の際に雨水を一旦溜め、時間差で排水をすることで、流出の抑制を図ってまいりたいと考えております。以上、簡単ではございますが、報告とさせていただきます。

【岩佐市長】

ありがとうございました。ただいま説明をいただきました、図書のまち阿南構想、また中央図書館（仮称）の基本設計の概要につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問があればお願いいたします。

【岡本委員】

読書テラスを設置していくという話がありまして、具体的に本を置くだけのものなのか、どういった空間を考えられているのか、お聞きしたいです。

【松本那賀川図書館長】

失礼いたします。読書テラスにつきましては、まず現在オープンしております科学センターの一角に、読書ができるスペースを作っております。図書館の蔵書を持っていくのではなく、新たにそれぞれの施設に合った本を購入して整備しております。運用については、図書館の方から一律のルール付けはせず、それぞれの施設でできるような運営でやっていただきたいと思います。科学センターは、現在は開館時間に合わせてその場で読んでいただく形ですが、他の読書テラスでは貸出を可能にするなど、施設のやり方に合わせていただいて結構ですし、本に限らず新聞を読んでもらう空間にでもらうのもいいと思っています。今年度整備するものはモデル施設ですので、運用しながら、改善できるものは今後の読書テラス作りにフィードバックしていきたいと考えております。

【新居委員】

失礼いたします。今、読書離れというか本を読む子が少なくなっている中で、たくさんの方たちの図書館を残してほしいという声があることに安心をしています。そして科学センターに理系の専門書があるというのはすごいことだなと思います。そこに足を運びたいなと思える場所ができたこと、単に本が読めるだけでなく、行きたいなと思えるテーマを作って、小さな段階から「こういうのって楽しいんだな」と思えるような、視覚的に入ってみたいというテーマを作ったら、もっといろんな方が足を運ぶのではないかなと思いました。あと席数なんですけど、今どのくらいございますか。

【松本那賀川図書館長】

席数なんですが、実は休校中の旧椿町中学校から譲り受けた机や椅子を利用しておりまして、席は約 20 ぐらいございます。

【新居委員】

ありがとうございます。せっかく作られて、需要がこれから出てくると思うので、例えば理系をイメージできるような大きなテーブルでみんなで勉強し合うような環境も、ゆくゆくは検討いただけたらいいと思います。あと、市民でも読書テラスがあることを知らない方もたくさんいらっしゃると思いますので、宣伝の方も力を入れていただけたらと思います。

【山田委員】

今の流れで、私、オープンの日に科学センターの読書テラスに行ってきました。午前中だったんですが、横で科学教室をされていて、まず場所が分かりませんでした。何のご案内もないので中へ入っていったら奥の方にあったんですが、ちょっと違和感を感じたのが、仕切りに紐みたいなものがあって、ちょっと閉鎖的だったので、フロアで区切る必要はないんじゃないかなと思いました。ちょうど高学年の女の子が読みふけていました。中央に 10 人ぐらい座れるテーブルと、窓に向かった個人の席もあって、科学雑誌、ニュートンとか星ナビとかが置いてあって、子どもさんが取れるような高さに合わせられていたので、配置も考えてくれているなと思いました。ただ、やはり雑誌は手元からすぐ取りたいので、もっと入り口側にあってもいいのかなと思いました。これからは改善されるということですが、科学的な本があるというのは本当にいいなと思いますし、どれも新しい本でしたので、研究しながら、できるだけ明るい方向に向かって進めていただければいいかなと思います。

【里美委員】

ありがとうございます。新しい図書館の話を伺うのは楽しみだなと心から思います。この資料に書いてくださっている「多様な居場所をつくる」という中に、阿南市ならではの郷土資料やレファレンスサービスの充実とあります。意外に、特に若い世代の人たちは阿南の歴史について知らないんじゃないかなと思うんです。先ほどのお話になりますが、北海道の友達は、阿南には殉教したキリシタンの資料があるんじゃないか、と言うんです。私は恥ずかしながら知らなかったんですが、調べましたら、聖母幼稚園の設立者の方のことで、ちゃんと碑文もございました。日本史の重要な歴史の一部であるそのことを、どれだけの子どもたちが知っているかなと、その時に思いました。阿南市は「何にもない」と言う方が多いですけども、実は知らないだけで、非常に豊かで貴重な歴史があると思うんです。なので、図書館を訪れた子どもたちが、科学のような新しい知見に触れると同時に、阿南市のこれまでの豊かな歴史というものにも触れることができるような、そういう空間にしていただけたら、子どもたちが阿南に愛着とか誇りを持ってくれるのではないかと思います。

【岩佐市長】

はい、ありがとうございます。進行の不手際で最後のご意見をいただく時間が十分取れず申し訳ございませんでした。この図書館のまちに関しても、検討していただいて、科学センターでは実際に見ていただいているところでもありますし、当然これは科学だけでなく、里美委員さんからもおっしゃっていただきましたが、歴史文化といった阿南の魅力、そういう分野を深掘りできるコーナーであったりとか。また新居委員さんからもいただきましたが、活字離れが進む中で、読書テラスが入り口として、本を読むきっかけになったらと思いますし、那賀川、羽ノ浦図書館の新たなあり方も含めて、多くの方が本に親しめる環境を、進化をしていければなという思いがあります。市長部局としても、しっかりできることを進めてまいりたいと思っておりますので、また随時ご提言などいただけたらと思います。すみません、予定した時間よりは超過してしまいましたけれども、協議はここまでとさせていただきます。ありがとうございました。

【天羽企画政策課長】

それでは閉会にあたりまして、岩佐市長からご挨拶をお願いいたします。

【岩佐市長】

改めまして、本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。本日は「小・中学校再編の成果と、閉校施設の今後の施設のあり方」についてご協議をいただきました。また、いろいろな報告の中でいただきました意見につきましても、市長部局としてもしっかりと共有をさせていただいて、今後の展開に繋げてまいりたいと思っております。今後におきましても、様々な課題が出てこようかと思えますけれども、市長部局と教育委員会の強い連携のもと、教育を行うための諸条件の整備や、子育て支援の取り組みを実践していきたいと考えております。本日いただきましたご意見、ご提言につきましては、共有の認識といたしまして、今後の教育行政に生かしてまいりたいと思っております。本日は本当にありがとうございます。

【天羽企画政策課長】

ありがとうございます。以上をもちまして、令和８年度第１回阿南市総合教育会議を閉会いたします。皆様、ご協力ありがとうございました。

14:55 閉会